

地域の循環器医療を支える 精鋭たち

Report



名張市立病院

〒 518-0481

三重県名張市百合が丘西 1 番町 178 番地

TEL : 0595-61-1100

<http://nabari-city-hospital.jp/>

名張市立病院循環器内科
循環器内科部長 片岡一明氏



三重県西部で奈良県との境、伊賀地方に属する名張市は大阪まで約1時間の距離にある自然豊かな都市だ。その名張市と、隣接する伊賀市を診療圏として持つ名張市立病院は、市民の循環器医療に大きく貢献している。この診療圏ではPCIを施行できる病院は名張市立病院を含め2施設であり、名張市立病院は、まさに地域の循環器医療の中核と言える。その中心となるのが、2014年に赴任してきた片岡一明循環器内科部長である。

増え続けるPCI件数を少数精鋭でこなす

名張市立病院の内科は完全紹介制で、受診するには開業医からの紹介状が必要だ。通常はPCIの手技が終わり次第、患者さんは開業医の元で二次予防管理を受ける。興味深いことに、ここ最近PCIの件数が大きく伸びている。2012年までは年間100件前後だったPCIは次の年には252件になり、2015年は500件を越えるまでになった。これは地域の高齢化が進んだことと、今まで拾いきれていなかった、保存的に見られ過ぎていた患者さんが多く残っているということだと片岡氏は考えている。また、PCI件数が増加しているのは、急性冠症候群を発症して救急搬送されてくる患者さんが増えたから

でもある。ところが、17万人という診療圏の人口に対し、循環器内科のスタッフ数はわずか3名。前述のとおり、PCIが可能な施設も足りていない。救急はすべての患者に対応できるわけではなく、循環器疾患は近隣3施設で輪番制を敷いている。「数の話を言うと、スタッフ数は決して十分ではないですね。スケジュールはタイトになりがちですし、大体定時で終わることはありません」と片岡氏。しかし、皆が高いモチベーションで動いているので、カテ室の空気はとても明るい。末梢血管インターベンションも2015年は50件弱行っている。

症例に対する責任を全うする

卒後、割と早い段階でインターベンション医を目指そうと考えていた片岡氏。後期研修で早くからカテーテル治療にたずさわることができ、患者さんがPCIで劇的に回復する様を見て、どんどんのめりこんでいった。そして、冠動脈がCTOだらけでどうしようもなく助けてあげられなかった症例に出会ったことがきっかけで、インターベンション医ならそういった患者さんを1人でも多く助けられるだろうという強い思いを持ち、CTOをはじめ、さまざまな症例を経験してきた。そして今、後進を指導する立場となった。そんな片岡氏が名張市立病院で行うPCIの件数は、3人のスタッフの中で一番少ないという。なぜなら、氏が施行するPCIはCTOや複雑病変などの難易度の高い症例がほとんどだからだ。若手にどんどん任せて、技術と自信をつけていってもらいながら、1つの症例に対する責任を全うする大切さを氏は説く。そして、自分で考えることも必要だという信念で、安全を担保しながらできるだけ最後まで若手主体でのPCIを施行してもらおう。「今年の春先から比べてもレベルアップしている実感がありますので、指導の方向性は間違っていないと思います」と片岡氏は言う。経験する症例も多いので、若手のレベルアップのスピードは速い。

若手を育てる

PCIを専門にしているが、自身の基本は循環器を専門にする内科医だという片岡氏は、後進にもバランスのと



れた感覚を持った医師になってほしいと考えている。循環器内科医であるという土台の上にインターベンションという柱を立てて、その技術を磨いていってほしいという。PCIは技術がすべてというわけではなく、基本的な手技はしっかりとできるようにしなければならないが、それ以上となると、本人がどこに目標を置いているかによって到達点が変わってくる。より高度なPCIまでマスターしたいと思うなら自分が満足するまで、そこまではというのであれば、一般的なPCIを確実にできるようにしてもらえばよいというのが片岡氏の考え方で、非常に柔軟だ。何よりも大切なのは患者さんが第一という姿勢であって、患者さんが受けるメリットが最大限になるように考え、実践できる医師になってほしいという観点で指導を片岡氏は心掛けている。

アブレーション治療という新しい取り組み

名張市立病院では、2015年からPCIに加えて不整脈治療にも力を入れるようになり、三重大学病院の不整脈専門医の協力でアブレーション治療を行っている。近隣の循環器治療が行える施設ではアブレーション治療を行っていないので、以前は状況次第でかなり離れた施設

に患者さんを紹介して受け入れてもらう必要があった。患者さんが遠くの施設に足を運ぶことなく治療を受けられるということは、まさしく地域医療への貢献の一つと言えるだろう。ところが、名張市立病院のカテ室は1室である。時間がかかる手技であるアブレーション治療を行うと、カテ室のマネジメントに大きく影響することがあるという。「カテ室をもう1室使えるようになれば、循環器の救急だけでもすべてこの病院で対応できるようになります」と片岡氏は言う。氏の目指す地域医療とは、地域の患者さんの治療を一手に引き受けて完結させてしまうことである。その思いから、カテ室の制限はあるものの、地域の循環器医療の充実のためにアブレーションはできるだけ続けていきたいと考えている。

強力なコメディカルのサポート

医師数が限られている中では、コメディカルの力が非常に重要になると片岡氏は強調する。看護師をはじめ、臨床工学技士、放射線技師、彼らの強いサポートがあってこそ安全で正確なPCIが可能となる。「チーム医療というか、皆で知識を増やし、技術を高めあうという姿勢が必要だと思います」と片岡氏。そのために学会



発表を経験してもらったり、勉強会を開いたりして、循環器内科にかかわるスタッフ全員の知識と技術の向上を図っている。コメディカル側も皆積極的で、カテ室の空気は非常に良い。「日中に緊急症例が来てスケジュールがタイトになったときなどは深夜遅くまでPCIとなることも多々あるのですが、それでも皆ついてきてくれるので助かります」と片岡氏は笑うが、それはスタッフ全員が、なぜ今この治療が必要なのかをしっかりと理解しているからに他ならない。全員が、質の高い医療を一人でも多くの患者さんに届けたいという思いで動いているのだ。

地域医療の理想を追い求めたい

名張市立病院には循環器内科はあるが心臓外科はない。心臓外科がないのでロータブレーターが使えない。また、心臓外科手術が必要となる症例は近隣施設で紹介するほかない。これが悩みどころだと片岡氏は言う。名

張市立病院が地域の循環器疾患の治療をすべて担うことが理想ではあるが、今のところまだ道のりは遠い。しかし、現在できることをしっかりとやっていくことで理想を追いかけることはできる。地域の循環器疾患の最後の砦となることを念頭に置き、これまで以上に救急医療、早期発見・早期治療に力を入れ、地域内での虚血性心疾患治療を完結させられるような形を目指す。新たに始めたアブレーション治療への取り組みをきっかけにして、どんどん新しいことができるようになることも考えられる。まずは循環器救急に毎日対応できる病院を目指したい片岡氏。「少しでも理想に近付ければいつも考えています」と笑顔を見せた。

非常に物腰が柔らかく穏やかな中に、一本太い芯が入っているのが見え隠れする片岡氏。苦労を苦労と感じないくらいモチベーションあふれる若手医師2人。そして、明るく充実感と元気さを感じさせるスタッフたち。少数精鋭部隊の地域医療へのチャレンジは今日も続く。